

第3学年2組 外国語活動学習指導案

【日時】令和2年11月26日(木) 14:30~15:15 【場所】3年2組教室 【指導者】牛尾 美穂

本授業の主張点

相手に気持ちを伝えるカードを作るためには、どんな色のどんな形のカードが何枚必要なのか考え、既習表現を使ったり相手に配慮したりしながら、友達と分かりやすく伝え合う児童の姿をお見せします。

1 単元名 This is for you.~カードでつながる心ぼかぼか大作戦~

2 単元の構想

(1) 単元について

本単元は、様々な形を表す英語や何が欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に出会い、それらの表現等を使いながら誰かに送るためのカードを作り、紹介し合うことが目標である。相手意識・目的意識を大切にしたい単元である。また、世界には様々なグリーティングカードがあり、それぞれの文化や習慣があることに気付かせる等、異文化理解を促すことができる単元でもある。そのカードが使われる場面や状況、それがもつ意味が違っても、どのカードも「相手のことを思って、自分の心を伝えるためのものである」ことに気付かせることで単元終末の活動を豊かなものにすることができる。

(2) 児童について

本学級の児童は、週1時間の外国語活動の時間でコミュニケーション体験を楽しみながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。事前アンケートの「外国語活動は楽しいですか」という問いに対し、86% (30名) の児童が「とてもそう思う」、14% (5名) の児童が「だいたいそう思う」と答えている。「どんなところが楽しいか」という問いに対しては、「歌を歌ったり、英語を言ったりすること」、また、「自分のことを英語で話すこと」、「先生や友達に英語で話すこと」等と答える児童が多く、外国語を声に出したり、外国語を通じて自分のことを伝えたり、友達とやり取りをしたりすることを楽しんでいることが分かる。一方で、普段の様子からは友達作りがあまり得意でない児童や友好的対人関係を築くことに困難を抱えている児童も見られる。本単元の学習活動を通して児童が人との関わり方を学んだり、人と関わる楽しさを実感したりすることができるように、人と関わっていくことへの意欲が高まるような場面設定を行う。また、人との関わりについては、ほとんどの児童がお世話になっている人として家族や学校の先生、友達を挙げている。もっと視野を広げ、どんな人とつながり支えられながら生活しているかに気付かせたい。

(3) 指導について

指導に当たっては、「心をつなぐぼかぼかカードを作っておくろう」という単元のゴールを設定し、逆向き設計で単元内容を組み立てる。単元の導入では、教師や児童が実際に受け取ったカードを含め、様々なグリーティングカードを紹介し、どんな気持ちが伝わるか、もらったときにどんな気持ちだったか等を交流し、気持ちを伝える様々なカードがあることに気付かせたり、そのカードのよさを感じさせたりする。カードへの興味、作成することや贈ることへの意欲を高め、児童一人一人が相手意識・目的意識をもつことができるような導入としたい。また、新出語彙としては、カードに描かれた形の英語表現に出会わせる。慣れ親しむ段階では、既習の色や数、新出の形の英語表現を何度も聞いたり声に出したりする必然性のある活動を仕組む。そして、慣れ親しんできた英語表現を活用して、カード作りの材料を集めるためのやり取りを行う。なお、カード作成は図画工作科の時間に行う。他にも道徳科の学習を通して心がつながるよさについて考える等、他教科との関連を図り、他教科等の学習の成果を外国語活動の学習の中で生かすことができるようにしたい。単元終末では、誰に、どんな気持ちを伝えてつながりたいのかを発表する活動を設定する。一人一人が自分の思いを安心して話すことができるように聞かせる態度の育成や温かな学級の雰囲気づくりに日頃から努めていく。カードを贈る場面では、カードをもらえたかどうかという受け身の姿勢に固執するのではなく、相手とつながり、相手の心をぼかぼかにしようするという能動的な態度を認めていき、気持ちを伝えて相手とつながる喜びを味わわせたい。

3 単元の目標

欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合い、誰かに気持ちを伝えるカードを作成し、そのカードを紹介したりカードに込めた気持ちを発表したりしようとする。

4 単元の評価規準

- ア 日本語と英語の音声の違いに気付き、形の言い方や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【知識・技能】
- イ カードを作るために欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。 【思考・判断・表現】
- ウ 誰にどんな気持ちを伝えるカードなのか、相手に伝わるように工夫しながら、発表しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 本時の指導（4/5）

(1) 目標

気持ちを伝えるカードを作るために、どんな色のどんな形をどれだけ集めたいか考え、尋ねたり答えたりしている。

(2) 評価規準

- イ カードを作るために欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。 【思考・判断・表現】

(3) 本時の展開

学習活動と児童の反応（〔 〕）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
<p>1 単元のゴールを確認し、本時のめあてを知る。（3分）</p>	<p>1 主体的に学習に取り組めるようにするため、何のためにどんな活動をするのかを確認し、相手意識・目的意識を明確にする。</p>
<p>色や形、数をたずねたり答えたりして、ほしい材料を伝え合おう。</p>	
<p>2 本時の英語表現に慣れ親しむ。（10分） (Let's Try! p.29 Let's Listen) 誰がどのカードを作ったのかを考え線で結ぶ活動。</p> <p>T: How many stars? S: Two. T: What color? S: Black. T: What shape is this? S: Rectangle. I: What color is this circle? S: Red.</p>	<p>2-(1) 学習活動4で使用する英語表現を何度も聞くことで、どんな英語表現を用いたらよいか確認できるようにする。</p> <p>2-(2) 聞く活動の前にテキストの作品を使って、児童とやり取りをすることで色や形、数の英語表現に慣れ親しませるとともに、集中して主体的に聞くことができるようにする。</p>
<p>3 カードを作るために欲しい材料カードを集める。（25分）</p> <p>S1: Hello. S2: Hello. S1: What do you want? S2: Red circle, please. S1: OK! Here you are. S2: Thank you. S1: You're welcome. S2: Two pink hearts, please. S: Two? Here you are. S2: Thank you. S1: You're welcome. See you. S2: See you.</p> <p>S3: Hello. S4: Hello. S3: What do you want? S4: Green heart, please. S3: How many? S4: Four. S3: Four? Here you are. S4: Thank you. S3: You're welcome. S4: See you. S3: See you.</p>	<p>3-(1) カードを贈る相手と相手に伝えたい気持ちを思い浮かべるよう促し、児童の活動への意欲を高める。</p> <p>3-(2) お店屋さんごっこの要領で、欲しい色や形、数のカードを伝え合い、そのカードを集める活動を設定することで、既習の言語材料の活用を促す。</p> <p>◆カードを作るために欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っているか（発言、観察）【思考・判断・表現】</p> <p>A 欲しい材料カードを相手に分かりやすく伝えたり、相手に話に反応しながら聞いたりしている。</p> <p>B 欲しい材料カードを伝えたり、相手の欲しい材料カードを手渡したりしている。 → どんな反応や質問をすれば分かりやすく伝え合うことができるか板書や児童のモデルから気付かせる。</p> <p>C 欲しい材料カードを伝えたり、相手の欲しいカードをわたしたりすることができない。 → 必要な情報一つずつ整理したり、非言語を活用したりするよう促す。</p>
<p>・ 笑顔で目を見て話してくれたから気持ちがよかった。 ・ うまく言えなかったけど、指をさしただけでも分かってもらえたよ。 ・ 友達が困っていたから、自分から形を尋ねてみたよ。</p>	<p>3-(3) 相手に配慮しながらコミュニケーションを図る態度を育てるため、相手に分かりやすく伝える工夫をしている児童を紹介する。</p>
<p>4 本時の活動を振り返る。（7分）</p> <p>・ 「ありがとう」の気持ちを表したかったので、暖かい色のカードを集めた。 ・ 形や数を繰り返して言うと、相手の欲しいものがはっきりわかった。</p>	<p>4-(1) 気持ちを伝える相手に思いを馳せて、材料集めができたことや分かりやすく伝え合うための工夫ができたことについて記述している児童の言葉を取り上げ、全体で共有する。</p> <p>4-(2) 図画工作科の時間を使ってカード作りをすることを伝え、次時の活動に意欲をつなぐ。</p>

